



すべてのことが
いつの日か
「無駄ではなかった」と
いえたらいい

『真宗児童聖典』(東本願寺) より

人生を自分の思うように生きていきたくない。誰に教わったわけではないのに、人は皆誰もがそう思いながら、今を生きている。

思い通りになる時もあるが、思い通りにはならない時もある。それが、生きるということなのだろう。

たとえ自分の思いがかなったとしても、またたとえ自分の思いがかなわなかったとしても、自分が経験したことすべてが、実は「無駄ではなかった」と言えたら、どんなに素晴らしいことだろう。

実は私たちは、誰もが心の奥底ですべてのことが「無駄ではなかった」と言える世界を、願っているのではないだろうか。そのような人々のことを、仏教では「求道者よ」と呼びかけているのである。
(住職)

↓ インスタ ↓

↓ 存明寺 HP ↓

存明寺のHP <https://zonmyoji.jp>

存明寺 Instagram と HP 定期的に更新中!

お寺の活動や諸行事、掲示板の言葉や花手水、法話動画など、定期的に更新中です。ぜひご覧ください。



親鸞 ゆさぶる言葉

こおり
おおきに
おおし
おおし
おおし
徳
おおし

「高僧和書」より

自坊でグリーンフケアのつといが始まって15年が経つ。毎回、多くの方々がそれぞれの体験と思いを背負いながらやってくる。

つといは、悲しみを乗り越えることを目的とはしない。今の自分の思いを言葉にすることに重きが置かれる。

多くの人びとが今の自らの思いを吐露される。「心に穴が」「後悔が消えない」「話せる相手がない」…。

大事にしていることは、語ることに聞くこと。

起こった出来事には違いがある。しかし、その出来事を通して感じ得たことには、案外共通することがある。

自責の念・孤独・空しさ・生きたいという心の叫び…。

一人ひとりがそれらの思いを抱きながら、今を懸命に生きようとしている。そこに共感の世界が広がる。

こおりおおきにみずおおし

さわりおおきに徳おおし

たとえ、こおりのような世界に身をおいたとしても、やがて春の光に照らされて、うるおいのみずが大地を満たすことだろう。

たとえ、さわりのような出来事や思いに遭遇したとしても、そのことを大事に体験しながら、仏さまの光に照らされて、「徳おおし」といえる世界に出会うこと。

そのことを、さわりおおき私たちは、ただひたすら待たれ続けているのではないだろうか。



著・文・酒井義一 ● さかいよしかず
1959年東京生まれ 真宗大谷派在野中住職



子どもたちとすごした 今年の夏



子どもたちとすごした今年の夏

▼コロナの影響により中断していた子ども会活動。この夏は久しぶりに通常に戻してのつどいが開催されました。本山・東本願寺では4年ぶりに4日間の「同朋ジュニア大会」が、また、ここ存明寺でも7月・8月の2回、夏の子ども会が行われ、水でつぼう大会などが元氣よく行われました。

▼つくづくと感じたことは、人と人とが直接顔を合わせ、触れ合い、出会うということの、面白さと大切さです。寝食を共にし、仏さまのお話を聞き、子どもたちと語りあい、触れ合う。そのようなことを通して、だんだんと、人と人の距離が近くなっているのです。

▼そのような触れ合いを、今までも多くの人たちが大切にしてきたことを強く思いました。コロナなどでは見失ってはいけない、出会いと触れ合いを、これからも大切にしていきたい！ そう強く感じた、子どもたちと共にすごした今年の夏でした。

子どもたちとすごした今年の夏

この夏、子どもたちと共に味わった、仏さまの言葉をご紹介します。

- * 相手が悪いと指をさす
- その下の指は自分に向いている
- * 私は正しい
- すべての争いの根はここにある
- * 自分さえよければいい…
- この悲しさ
- * 人生思い通りに
- ならないことばかり
- そのことが私に
- 大切なことを気づかせてくれる

まもなく締め切り!!

3年に1度の 帰敬式ききょうしき

日時 2023年12月2日(土)

10時半～13時半

場所 真宗大谷派 存明寺

費用 30,000円

※申込者は只今10名です。

※締め切りは11月3日です。

